

第58期 事業報告

当年度の事業概要を次の通り報告いたします。

(平成20年6月1日より平成21年5月31日まで)

1. 文字・活字文化を基盤とした科学技術創造立国推進のための活動

○文字・活字文化推進機構の会員として、関係する各行事に参加しその活動に協力した。

- ・平成20年6月16日 『『国民読書年』の国会決議をめぐる報告集会』に参加し、採択内容について報告を受ける。
- ・平成20年10月30日 シンポジウム「あたたかい医療と言葉の力」(講演者、日本医師会会長、日本歯科医師会会長、日本薬剤師会会長)に参加し、医療現場での「言葉の力」の役割について講演を受ける。

○平成21年度文部科学大臣表彰科学技術賞の推薦団体として会員各社から当該表彰候補を募り文部科学省に2件推薦した。推薦した2件が受賞し、平成21年の科学技術週間のなか、4月14日 虎ノ門パストラルにおいて表彰式が行われ、塩谷立 文部科学大臣出席のもと表彰状が手渡された。

[表彰対象部門：科学技術賞理解増進部門]

- ・「酵素ハンドブックの出版活動による生命科学の理解増進」高原 富夫(朝倉書店)
- ・「多年にわたる治療年鑑による臨床医学の理解増進」阪本 稔(医学書院)

2. 著作権法における出版者の権利保護のための活動

○出版界の悲願である「出版者の権利」確立についてコンセンサスを得るために、日本書籍出版協会をはじめ出版諸団体と交流を行い、その実現に向けて努力した。

3. 著作権知識の正しい理解と普及のための活動

○日本書籍出版協会をはじめとする出版関係団体と協力して、出版者著作権協

議会を一般社団法人「出版者著作権管理機構」に発展させ、複写権処理機構の一本化に向けて努力した。

- 学術情報の健全かつ円滑な流通を促進するために、図表等に関する転載許諾のガイドライン「転載許諾ガイドライン 2008」を制定し、その普及のために努力した。

4. 出版物再販制度維持のための活動

- 当協会の再販制度に対する基本姿勢は、過去 2 回にわたる廃止反対声明（平成 7 年 3 月および同年 11 月）で明らかなようにあくまでも「維持」を原則としている。このための活動は 58 期においても事業計画の重要課題の一つであり、税制・再販流通特別委員会を設置して対応してきた。平成 13 年に「当面存置」とした公正取引委員会の方針は現時点までは変更されていないが、流通改善・弾力運用を含む「是正 6 項目」への取り組みが強く求められている。T I B F における一部割引販売、一部の会員社による謝恩価格本ネット販売フェアなどへの参加は、これに応えるものである。

5. 消費税軽減税率適用問題への対応

- 少子・高齢社会の税制のあり方として、消費税率の引き上げが検討されているが、当協会では専門書出版の特性や科学技術の振興・普及に果たす役割の大きさに鑑みて、特に軽減税率の適用を強く要望している。このような趣旨に沿った要望書案を作成し、時機を見て政府および各政党税調等に提出する予定である。

6. 国内・外の各ブックフェアへの協力と参加

- 第 15 回東京国際ブックフェア（TIBF2008）は、東京ビッグサイト西展示場にて 7 月 10 日から 13 日まで開催された。当協会では例年のように共同ブースを運営した。新しい試みとして各社の代表的出版物コーナーを実施。

出展参加社は 62 社、出展総冊数は 2,633 冊。総売上冊数 450 冊、総売上金額は 1,396,169 円だった。

- 国内での自然科学書フェアとして、仙台と京都の 2 箇所を実施。

①仙台（平成 21 年 5 月 10 日～6 月 28 日；丸善仙台アエル店）：参加社数は

53社、出展点数は 261点。出荷冊数は 682冊。

②京都（平成 21 年 5 月 7 日～7 月 4 日；ジュンク堂書店京都 BAL 店）：Ⅰ期とⅡ期の合計で、参加社数は 60 社、出展点数は 300 点、出荷冊数は 1,500 冊。

○第 15 回北京国際図書展示会（BIBF2008）は 2008 年 9 月 1 日～4 日の日程で天津で開催された。日本事務局であるトーハン経由で、共同ブースの自然科学書コーナーへ 27 社 213 点が出品された。

○第 60 回フランクフルトブックフェアは、2008 年 10 月 15 日～19 日の日程で開催された。出版文化国際交流会の共同ブースに、30 社 59 点が出品された。

7. 2009 年ソウル国際ブックフェア日本年への協力と参加

○2009 年 5 月 13 日から 17 日に開催された「ソウル国際ブックフェア」は日本年と位置づけられ、日本書籍出版協会が全面的に協力した。当協会もこれに協力し、自然科学書の幅広い展示により啓蒙を図った。

協会として自然科学書コーナーに 337 点を展示することができた。またこの他に家政学図書目録刊行会から 95 点の出品もあり、協会として幅広く展示することができた。

○韓国出版界と交流した。5 月 12 日に行われた「日本年」オープニング・レセプションでは、「韓国科学技術出版協会」の会長をはじめ副会長など多数の要人と歓談し、自然科学書に対する出版について話し合いを持つことができた。「韓国科学技術出版協会」の多くは、7 月に行われる「東京国際ブックフェア」に来日することとなった。

協会として当フェア視察のツアーを計画し、多くの会員の参加を得、成功裏に交流を図ることができた。

8. 科学技術知識普及のための講演会、研究会等の開催

○文部科学省主催の第 50 回科学技術週間（平成 21 年 4 月 13 日から 19 日）に企画された神保町でのサイエンスカフェに当協会共催で 5 回開催した。当協会の構成員である理学書・工学書・農業書・医学書・家政学書に協力

いただいた。共催したサイエンスカフェは次の通り。

- ・13日 新しい超伝導の夢を追って：秋光純先生
- ・14日 食事摂取基準を背景にした個人対応の食事学：池本真二先生
- ・17日 破壊事故は何故起こるか：小林英男先生
- ・18日 こころの不調を防ごう：松本桂樹先生
- ・18日 日本の果物，今までとこれから：梶浦一郎先生

○「国内での自然科学書フェア」と連携を保ちながら，仙台（平成21年6月17日）と京都（平成21年6月18日）にて講演会を開催予定。

9. 出版活動における経営，印刷，製本，資材等に関する研究および関連業界との交流

○ICタグ（RFタグ）の出版業への試験的導入として，複数の取引条件（買切と委託）の併用による小学館『ホームメディカ 新版家庭医学大事典』の発売は出版業界の大きな話題となった。専門書の出版社として，RFタグの導入にハードとソフトの両面から，具体的にどう取り組めばよいのかなどの理解を増進するために，（株）日立製作所RFID事業部・中島洋氏を講師に迎え，「ICタグの出版への導入」と題した研修会を開催した（平成21年3月5日）。他業種を含めRFタグの導入に実践的に取り組んでこられた同氏の講演は含蓄に富み，専門書販売の将来を考えるうえでたいへん参考になった。

○東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第11回出版・印刷人の集い」に協賛し，「メンタルヘルス問題の傾向と対策」（講師：臨床診断士・精神保健福祉士・シニア産業カウンセラー 松本桂樹氏）と題した講演会を開催した（平成20年11月13日）。

10. 会員名簿（英文・和文）の作成と協会周知のための活動

○平成20年6月に「The Natural Science Publishers' Association of Japan」を発行し関連団体，国際ブックフェア等で配布した。発行部数200部。

○平成20年12月に和文会員名簿を発行した。発行部数200部。

11. 会報の発行と会員増強のための活動

○会報を年4回発行した(今期は7・11・1・5月)。また、ホームページでも公開した。

主な記事は次の通り。

- ①理事会の動向や決定の周知
- ②各専門委員会活動の報告
- ③講演会の要約
- ④各分野学者による自然科学書に関わるエッセイ
- ⑤流通に携わる人の自然科学書版元への意見・要望
- ⑥国際ブックフェアの報告
- ⑦TIBF 出展目録の掲載

○会員増強のために東京国際ブックフェア会場や日本出版クラブ会館のロビーなどに会報を置き、また各種団体等会員以外の方へも送付し、当協会のPR・会員増強活動を行った。

○ホームページによる広報活動の実施:協会のホームページを常に最新の状態にして、外部への情報発信を行っている。

- ・会報のPDF版を掲載した。
- ・第50回科学技術週間サイエンスカフェに協力するため、案内の掲載と文部科学省へのリンクを張った。
- ・「自然科学書協会講演会2009」の案内を掲載し、講演会の申込をHPから受け付けられるようにした。
- ・「転載許諾ガイドライン2008」を掲載した。

12. その他当協会が行うべき事業

○公益法人制度改革にともなう移行について、特別委員会で移行の時期・方向を協議・検討している。

○公益法人制度改革の会計基準に合わせた改定を行う。

